

化学物質の管理

日本化薬グループでは、数多くの化学製品を取り扱っているため、安全性を高め、健康的な暮らしを守る目的で、化学物質の適正な管理に努めています。

物流時の事故防止、安全対策

■ イエローカードの提供

危険有害性を有する化学物質を輸送する場合には、イエローカード^{※3}を運転手に提供し、万一の緊急事態への対応に備えています。

※3 イエローカード：日本化学工業協会が提唱している自主活動のひとつ。化学物質や高圧ガス輸送時の万一の事故に備え、ローリーの運転手や消防・警察などの関係者が、取るべき処置を書いた緊急連絡カードのこと。このカードに黄色の紙を使うことから、「イエローカード」と呼んでいる

■ クロルピクリンの輸送

クロルピクリンは刺激性の強い農薬なので、輸送には細心の配慮を行っています。万一漏洩したときに備え、全国の拠点に緊急処理用の資材を配備し、定期的に訓練を実施しています。また、輸送時のリスクを低減するために、輸送ルートを含めて見直しを行っています。

■ 化学物質の漏洩への対応

有害化学物質が漏洩したときに備えて処理手順を整備するとともに、空気呼吸器の装着を含めた訓練を実施しています。



有害化学物質漏洩処理訓練風景

危険物、麻薬等の取り扱い管理

■ 工場における危険物の管理

工場では、原材料や中間物などの受払いをコンピュータで管理しています。このシステムを用いて、危険物の貯蔵量を、貯蔵している場所ごとに把握する仕組みを作っています。これは、万一火災が発生したときに火災現場の危険物貯蔵量を正確に把握して、消防活動を円滑にすすめるためのものです。

■ 麻薬の取り扱い

がん患者の激しい痛みを鎮める医薬品として、麻薬のモルヒネ製剤を提供しています。この麻薬の取り扱いに際しては、入室管理、施錠管理、在庫管理、流通管理、廃棄管理および記録管理を含め、厳しい管理を行っています。

■ 生物製剤の取り扱い

がんの治療に弱毒化した牛型結核菌 (BCG) を用いた医薬品を製造・販売しています。万一の感染症の発症時には遡及調査を可能とするために、販売卸業者・医療機関ごとの住所、製造番号、数量等の販売記録を、10年間保管しています。

■ 放射性物質の取り扱い

放射性同位元素は、医薬品候補化合物のスクリーニング、薬効評価、薬物動態試験などに有効利用されます。医薬品研究所では、放射線障害防止法に基づき、許可された施設内で許可された核種、数量を厳守して使用しています。また、実験者の定期的な教育訓練および健康診断、作業環境の管理を確実に実施し、安全な作業を行っています。

化学物質のデータ収集および蓄積

化学物質を適切かつ安全に取り扱うために、当社で製造および使用する原料、中間体、製品の危険性に関するデータを収集し、1990年からこれをデータベースとして蓄積しています。データベースは社内の情報網を通じてアクセスすることができ、現在、約2,900物質を収録しています。

化学物質の危険性については、基準を定めて5段階に分類し、指標をつけています。設備、作業方法、保護具などの設定はこの指標を基準にしています。